



発行日：令和2年11月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第8回市民部会を開催しました！

第8回市民部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で豊田市にて開催しました。今回の市民部会WGでは、延期が決まった第1回勉強会（バスツアー）の計画、第2回勉強会の計画について、意見交換と検討を行いました。



日時：令和2年10月8日（木） 14:00～16:00
会議場所：豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室
参加者：12名（内オンライン参加1名） *事務局含む

◆主な会議内容

1. バスツアー（第1回勉強会）について



新型コロナウイルス感染拡大防止のため順延が決定したバスツアー（第1回勉強会）について、今後の実施予定、実施内容について再検討を行いました。

【バスツアーの再検討】

- ・ 実施時期：冬期のコロナ感染状況、社会の情勢を踏まえながら、来年度の平日に実施する方向で再調整する。
- ・ 実施内容：バスツアーの実施内容は、第7回市民部会WGで決定した事項と基本的に同じ内容とする。説明予定者との日程調整を行い、日程を決定する。



2. 第2回勉強会について



第7回市民部会で検討した第2回勉強会の2テーマ（マイクロプラスチック・ネオニコチノイド系農薬）について、実施時期、講師選定、実施方法等について検討を行いました。

※2020年11月18日に、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ、今年度の開催を見送ることが決定しました

【第2回勉強会の実施内容】

- ・ 勉強会のテーマ：①マイクロプラスチックの環境影響 ②ネオニコチノイド系農薬の環境影響
- ・ 実施時期：令和3年1～5月を目途に実施。実施時期は講師予定者と調整して決定する。開催回数は、テーマごとに各1回の勉強会を別日に実施する。
- ・ 講師選定：10～11月に講師を選定し、12月のまとめの会で計画を具体化する。ネオニコチノイド系農薬については、地域での研究がまだ進んでいないことから、研究の地域性にはこだわらない。
- ・ 実施場所：ホールか大きめの会議室がある豊田市の施設を検討する。
- ・ 勉強会のPR：勉強会の内容が固まったら、Webやポスター等による広報を行い、広く参加者を募集する。勉強会を通じて流域圏懇談会の活動を外に発信していくことにより、20年目に向けたスタートとする。

3. その他



12月に予定されている「まとめの会」の内容・日程について協議しました。まとめの会では、全体会議での報告内容を見据え、第2回勉強会の進捗と具体化、今年度の反省と次年度の目標などを協議することが決まりました。また、情報共有・情報発信について意見や提案が出されました。

【市民部会 まとめ会の実施】令和2年12月9日（水）14時～ 豊田市崇化館交流館



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●バスツアー (第1回勉強会) について

- ・この冬のコロナの状況のみて、年度内に実施できるか来年度になるかがわかると思う。(高橋・近藤)
- ・今年度2月にやるとなった場合は、現場を見ながら今年の成果の確認とするのも一つだろう。(山本孝)
- ・密を避けるという点でも、個人の車で参加も検討するほうがよい。(高橋)
 - ▶個人の車では、駐車場が必要で全員は無理がある。バス2台では、30名弱の参加を想定する。(光岡・事務局)
- ・なるべく多くの人参加でき、安全な時期で設定したい。実施時期は年明けに再検討するほうがよい。(近藤)
- ・10年誌の配布が年明けとなるので、10年誌をバスツアーの教科書として使用するのもよい。(近藤)
- ・楽しく、健康なバスツアーとしたいので、4~5月ごろの実施がよい。(浅田)
 - ▶4月頃の平日の実施を目途に説明者の予定を調整する。(光岡)

●第2回勉強会について

【講師の選定について】

- ・講師は、矢作川流域、伊勢・三河湾流域、愛知や東海地域で研究している方等をお願いしたい。(浅田)
 - ▶マイクロプラスチックの講師では、四日市大学に適した研究者がいるので講師として検討したい。(近藤)
 - ▶輸入小麦粉関係でネオニコチノイドを調べている方が四日市大学にいる。(沖)
 - ▶ネオニコチノイドについては、研究が進んでいないため、この地域の研究者にこだわる必要はない。(近藤・内田)
 - ▶ネオニコチノイド系農薬の生物影響について、関東に適した研究者がいるので講師として検討したい。(松沢)
 - ▶ネオニコチノイド系農薬の生物影響は養蜂家の関心も高い。名古屋近辺の大学に研究者がいるかも。(浅田)
- ・マイクロプラスチックやネオニコチノイドに生物や環境を絡めて語れる方がよい。(松沢)

【開催時期、開催方法について】

- ・講師の方の予定を第一優先として、12~5月くらいの期間で検討するほうがよい。(山本薫)
 - ▶十分な準備ができる1~2月、4~5月での実施を検討していく。(光岡)
- ・1回1テーマとし、2回に分け、質問時間も含めて時間を十分とるほうがよい。(井上・山本薫)
- ・講師による講義は最大で90分以内とし、質問時間を含めて2時間程度がよい。(光岡)
- ・市民部会で知りたいことや、聞きたい内容を事前にまとめて講師にお伝えするとよい。(事務局)
- ・理想としては大きな会場で、リモートも併用して実施したい。(近藤)
 - ▶会場としては豊田市がよいと思う。(光岡)
- ・一般市民への情報発信も目的としているため、開催は土日を含めて設定するほうがよい。(近藤)
 - ▶土曜日の夕方などもよいのではないか。(山本薫・浅田)
 - ▶勉強会は土日での設定を検討する。(光岡)

【マイクロプラスチックの勉強会について】

- ・矢作川流域圏や伊勢・三河湾流域圏の状況を踏まえて話がしてもらえるとよい。(浅田)
- ・前回WGでは農業系の問題があげられたが、スクラップ材としては、一般工業系の問題もある。(光岡)
- ・化粧品など、マイクロプラスチックを自分が知らずに使っているということは、気づいていないと思う。若い人たちに周知する、良いタイミングになると思う。たくさんの方に聞いてもらえるとよい。(光岡)

【ネオニコチノイド系農薬の勉強会について】

- ・トンボは人里に近い水域に生息するので、トンボへの影響の話がよいと思う。(内田)
- ・生物影響についてはトンボで研究が進んでいる。全国共通の話でよいと思う。(松沢)
- ・ネオニコチノイドの全国的な話に加えて、愛知県のトンボに詳しい人にも話をしてもらおうとよい。(内田)
- ・ネオニコチノイド系農薬は、トンボだけではなく河川に生息する節足動物にも影響があるように思う。(高橋)
 - ▶山地河川の水生昆虫には影響は出ていないと思う。河川では魚はいるのに水生昆虫がいないところがある。(内田)

【勉強会の広報について】

- ・勉強会のチラシを作成し、いろんなところでアピールする。WEBを使って参加や配信をしていきたい。(山本薫)
- ・外部への発信は、流域圏懇談会20年目に向けたスタートとして、すごく大きいことと思う。(近藤)
- ・勉強会は、若い人をターゲットとしたい。スマホやSNSなどを使っての広報を検討するとよい。(高橋)

●その他

- ・日程調整、連絡など、SNSは役に立つ。SNSの利用を検討してほしい。(山本薫・浅田)
- ・勉強会を市民部会で試行し、来年度から懇談会の外に向けた企画としていければよい。(近藤)
 - ▶流域圏懇談会として情報の発信は大きなテーマと考える。(光岡)
- ・外に向けた教育活動は、流域圏懇談会として大きな事業と思う。市民部会で企画していけたらよい。(浅田)
- ・アサリの問題で窒素・リンに着目しているが、シリカも重要であることを提言していきたい。(井上)

今後の予定

■市民部会まとめの会

日時：令和2年12月9日(水) 14:00~16:00 豊田市崇化館交流館



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iijnet.or.jp) までお送りください。

